

令和7年度 長野県立歴史館資料選定会議 議事録

日時 令和7年7月25日（金）
13時30分～15時
場所 長野県立歴史館 会議室

出席者

会長：浅倉委員、副会長：原田委員
委員：石川委員、井上委員、織田委員、樋口委員
当館職員特別館長以下10名

1 開会（進行 新津副館長兼学芸部長）

昨年度までの「資料委員会」を本年度から「資料選定会議」に名称が変更。ただし、会の内容は従来に準ずる形で進める。委員の皆様は、令和6年4月1日～令和8年3月31日の任期で「資料委員」として委嘱。

2 特別館長あいさつ（笹本特別館長）

大雨警報が出る状況の中、お集まりいただき感謝。予算が限られる昨今、県立歴史館では幸いにも資料収集予算を確保できているので、資料選定を慎重に行い効果的な収集を行うため、先生方のご指導・ご協力を願いしたい。

3 出席者自己紹介

・館内出席者

笹本特別館長、小松館長、新津副館長兼学芸部長、水澤総合情報課長、櫻井考古資料課長、村石文献史料課長、小林文化財指導主事、杉木文化財専門員、新井文化財指導主事、県民文化部文化振興課石原主任の順

・委員の皆様

石川日出志委員、原田和彦委員、井上聰委員、浅倉有子委員、織田顕行委員、樋口明里委員の順

4 会長・副会長選出

【新津副館長兼学芸部長】委員会設置要綱により会長・副会長の確認。昨年度に引き続き、会長を浅倉委員、副会長を原田委員に依頼。会議開始にあたり、浅倉会長は前席へ移動を。

5 会長挨拶

【浅倉会長】会長挨拶。上越はひと月以上雨が降らない悲惨な状況ながら、それを凌ぐ熱い議論に期待したい。ご協力を。

6 議事

【水澤課長】配付資料確認。

- 1p 資料1 長野県立歴史館資料選定会議設置要綱
- 2p 資料2 令和6・7年度 長野県立歴史館資料委員名簿
- 3p 資料3 資料選定会議席図
- 4p 資料4 長野県立歴史館資料取扱要綱
- 18p 資料5 長野県立歴史館資料購入要項
- 19p 資料6 令和6(2024)年度の収集資料
- 20p 資料7 令和7(2025)年度の流出防止購入資料
- 22p 資料8 令和8(2026)年度の流出防止購入予定資料
- 24p 資料9 令和8(2026)年度以降流出防止購入候補資料
- 25p 資料10 常設展示方針と購入希望
- 27p 資料11 (11-2) 令和8(2026)年度複製希望資料(古代・中世)
(11-2) 令和8(2026)年度購入希望資料(原始)

資料4「長野県立歴史館資料取扱要綱」の第7条に300万円以上の資料購入には資料選定会議で協議する規定あるが本年度購入予定資料には300万円以上が無いため「5議事」の中から「協議」を外し、(1)「報告事項」とした。

令和8年度購入予定資料にはあらかじめ予算措置がある「県外流出防止資料」と令和8年度以降の購入候補資料および常設展示の充実のための複製および実物資料の購入希望があり、資料10、11でまとめ、別途報告予定。

(1)報告事項

○令和6(2024)年度の収集資料について

【水澤課長】19頁の資料6は令和6年度購入および寄贈を受けた収集資料一覧。概要について村石文献史料課長から説明。

【村石課長】当館の古文書等の歴史資料の収集費は300万円、流出文書の購入予算費は120万円、計420万円の購入予算が盛られている。令和6年度の資料収集は、県の特定歴史公文書以外で、寄贈・寄託・購入、移管の別がある。代表的な資料を別室に準備し、別紙の綴じ込みの資料を配付。昨年度の特徴としては、寄託資料が何点か入った。当館では古文書のクラウドファンディングを2回実施。そのうち1回目のクラウドファンディング対象は「武田晴信書状」で、その取り組みを県のホームページ等で広報したところ、県外で資料収集を手掛けている個人が大変感銘を受けたとのことで、資料を当館に寄贈した(資料6参照)。

(2)の近現代資料では、長野県史の編纂にあたり、特に戦後史編を編纂していく方向で進んでいる。当館では開館以来戦後史の資料も収集してきがた、来年度は県制150周年、今年度は戦後80年という節目でもあり、近現代資料の寄贈が増えていると感じる。

【浅倉会長】ご意見・ご質問を。大矢さんの収集資料すごい。

【村石課長】当館のみならず他館にも同様に寄託していると聞いているが、身の引き締まる思い。

【浅倉会長】戦前の公文書について、流出した経緯を教えてほしい。購入しようということですか。

【村石課長】南信地方の古書店で売買されると県立図書館の関係者から通報があり、散逸防

止のための措置を取った。

【原田副会長】1番の小林家の文書では、韮崎市で取得された文書もあり。松代の江戸藩邸の図面も入っていたか。

【村石課長】小林家住宅は登録文化財。私設の資料館も経営し、そこで展示公開をしていたが、所蔵者がご高齢のため、原田副会長指摘の古文書も含め、図類・写本類等の寄付をすることになった。新府城築城に関する昌幸書状については、その経緯を示す新聞記事が残っており、詳細を把握できた。

【原田副会長】附属として真田家の赤い六文銭の旗を付けたらしい。小林家には塗り物等も残っていたが。

【村石課長】いわゆる什器類については、現在も別室で保存されている状態。他にも長野オリンピック関係のものも保存されている。長野市と逐一連絡を取りながら散逸しないように情報を収集していきたい。

【原田副会長】歴史館で什器類収集はいかが。

【村石課長】検討したい。

【原田副会長】お願いします。

【井上委員】資料6の20は去年書面で見せていただいたクラウドファンディング購入ものか。

【村石課長】はい。購入が成立したので、本日配付チラシの通り8月に改めてご覧いただきたい。

【浅倉会長】講演会付きのものか。

【村石課長】はい。

【樋口委員】「(2) 近現代資料」6のゼロ戦のバケツとは、どのようなものか。

【村石課長】上田市の窪田氏が祖父の資料を寄贈したもので、ゼロ戦の先頭部分をバケツとして再利用していたというもの。未整理の状態だが、展示する際には興味深いものになるだろう。

【織田委員】クラウドファンディングは2回目だが、公的な施設故手続き上で何か障害はあるか。

【村石課長】1回目の時と2回目の時で媒体を変えている。1回目は民間の媒体で行ったため手数料が高額。2回目は文化財振興課で運営し、「ガチなが」という長野県単独の返礼品・手数料なしのクラウドファンディングで実施。様々な事業で行われていると聞く。障害については、県民の財産、県にとって重要な資料を守っていきたいという意識を醸成する動きの中で、一緒に購入していきましょうという体裁を取った。県の財政の中で難しいものについて手をこまねいているのではなく、様々なやり方の中の一つの選択肢であったと思う。

○令和7(2025)年度の購入予定資料について（真田信之朱印状・上杉景勝書状）

【浅倉会長】「○令和7(2025)年度の購入予定資料について」事務局から説明を。

【村石課長】20頁参照。大阪冬の陣・夏の陣に関わる内容で、冬の陣の際に真田信之が出兵時に足軽を雇った経緯について書かれている。資料7は長野市の歴史研究家の高橋伝造氏が亡くなり、散逸していたものを当館が購入したもの。21頁の上杉景勝の書状の内容はいわゆる新年の祝儀に対する景勝の答礼だが、宛先が左近助ということで、現在の山ノ内町にいた国衆に伝えられた文書。夜交家文書が当館に30点寄贈されたが、寄贈段階に流出していたものをその後発見し、購入した。今年度購入予定の資料2点については以上。

【原田副会長】信之の文書に記されている勘定奉行というのはいかがか。

【村石課長】丸島和洋氏の著書によると、もともとは宮下氏が信之の側近で、勘定方（経理系）を担っていたが、（異筆）勘定奉行より更に上位に名前があるので、いわゆる家老として松代藩の中で一定の地位を得た人間だろうとされている。ただ、大坂の陣の際に真田信繁に協力していたことが発覚してその後処刑された。これは『信濃史料』編さんの段階では残っていたが、それ以降流出してしまったということだろう。

【原田副会長】大阪の陣に行ったのは息子でしたよね。信之がある程度差配していた。

【村石課長】信之の名代で出ているということ。

【井上委員】21について、所蔵されている文書群で表具されているものはあるか。

【村石課長】世間瀬家の方は当館で寄贈されたものだ、いずれもまくりで生（うぶ）の状態。よって表具となっている本史料は、かなり前の段階で流出したものといえる。

【水澤課長】令和6年度と7年度に収集した主な資料を隣の休養室に用意した。

【村石課長】壁に掛かっているのが今お話した2点。

【村石課長】（実物資料の説明）当日、資料の説明ペーパーを配付

【水澤課長】それでは、そろそろ会議室へ。

【浅倉会長】令和6年度・7年度の収集・購入資料について、質問・意見を。

【原田副会長】真田昌幸の「幸」がない。本文に比べて墨色が薄かった。

【村石課長】本文・花押・署名の「昌」と違うということか。「安房」と「昌」が一緒だ。

【原田副会長】花押だけの紙がある。判は本人か、右筆か。全体の字が同じ字。

【村石課長】本人が「昌」だけ書いているということか。類例を見てどういう書き方をするか検討したい。

【原田副会長】墨色が署名だけ異なる。

【村石課長】ということだと「判紙」と考えられるか。本文の字が宝物館にあるものでいくと同じ字体のものある。ただ、自筆ではない感じ。

【原田副会長】小林家の文書は折紙を切ったものであったが、修復したのか。

【村石課長】もともと折紙だったので、形状を修復した。ただし修復したと分かるような形にしている。折紙のように上下逆にした（資料1のもの）。

【井上委員】長念寺文書は阿弥陀像と関係あるか。

【村石課長】像を寄付するという内容で書かれているが、阿弥陀佛本体と一致するかの確定は難しい。そうだと面白い。

【井上委員】どうしてこちらへ流れてきたのか、その経緯は何か。

【村石課長】本堂ではなく、庫裡にずっと置かれていたため誰も知らなかった。40年も前の話だが、倉田文作氏が、たまたま庫裡に入つて発見した。しかし、紙背文書なのでなかなか読めない部分が多く、当時の東京大学史料編纂所にもご協力をいただいて翻刻したと記録にある。

【浅倉会長】奈良のどちらの莊園か。

【村石課長】奈良県五條市周辺の宇野莊に関する文書であると思われる。ここは醍醐寺三寶院の莊園になっていた。

○令和8(2026)年度の購入予定資料について—1（上杉景勝書状（岩井文書）・小林一茶句稿）

【浅倉会長】「○令和8（2026）年度の購入予定資料について」事務局から説明を。

【水澤課長】22・23頁の資料8と24頁の資料9。資料8が令和8年度の購入予定資料、資料9が令和8年度以降の購入候補資料になる。併せて村石課長より説明を。

【村石課長】資料8をご覧ください。非常に面白い文書で新出の資料。武田勝頼が天正6年以降、信濃一帯を支配することになったが、岩井備中守という飯山地域にいた武士の一族の外様衆が上杉の配下と武田の配下で二手に分かれた。武田についた外様衆は、武田家が滅び主を失ったため、上杉景勝につかざるを得なくなった。また、天正壬午の乱により混乱している時期の文書。岩井家文書はほぼ散逸してしまったが、当館が県立図書館の時代に購入したものが数点あり、東京大学史料編纂所でかつて撮影した文書が、現在では散逸してしまったものもある。そういう意味からは知られていなかった文書。購入候補として来年度以降の予算要求をしていきたい。

資料8については、300万円以内（220万円）ということで委員会の審議ではなく事後承諾という形になるが、24頁・資料9については、令和8年度に購入ということではなく、今後検討していきたいと考えているので今後ご教示を。小林一茶は長野県内で非常に有名な文人であり、素朴な句で全国的にも評価されているが、新出の74句が出てきたということで大変な話題。そのため、額も最初は1200万円ということだったが、交渉してこの値段（税別9,090,909円）になった。国文学の矢羽勝幸先生にも大変興味深く面白いというお話をいただいたが、高額なため県の単独予算ということでは難しく、クラウドファンディングや県の美術品購入の基金を活用できれば、と考える。

【浅倉会長】資料8、資料9に関わる報告につき、質問や意見を。

【浅倉会長】資料9の一茶について、矢羽勝幸氏を見ていただくということでよいか。鑑定はどのような方で行うのか。

【村石課長】矢羽氏にみていただくことで内諾を得ている。購入方針で良ければ正式に鑑定料も予算計上する。一茶を研究されている第一人者である。

【原田副会長】玉城司氏も候補となる。

【村石課長】了解。

【原田副会長】長沼にも一茶関係資料はあるが、そこから出た可能性はないか（浸水後）。

【村石課長】令和元年の台風以前よりこの作品は目録で紹介されている。

【織田委員】一茶の資料は今まで歴史館でどれだけ収集しているか。

【村石課長】一茶の資料は、当館が開館する前の県立図書館の時代に郷土資料陳列室とで収集した今井家文書の中に1点入っている。善光寺の代官職今井家は一茶との関わりが深く、その中に一茶の句帳がある。それ以外に当館では一茶関係のものはない。

【浅倉会長】一茶は字があまり上手くない印象だが、いかがか。

【村石課長】どうでしょうか・・。

【樋口委員】来年度に購入で今年話したいということ。年度をまたぐことを了承得たのか。難色を示されることもあったのでは？

【村石課長】当然了承をいただいている。それは向こうも商売でやられているので、ものによるのではないか。他に引手がある場合や、すぐに欲しいという方も当然出てくる。目録に出ているものとそうでないものでも差があるだろう。目録に出ていないものは、今しばらくは様子を見ようということもある。

【浅倉会長】個人で持っているのか。

【村石課長】これは個人ではなくて、古書店。

【石川委員】古書店の一茶の資料は他と競合する可能性はあるか。

【村石課長】額が高額であるため、幸い現状ではオファーはないと承知している。

【井上委員】一茶の目録はどういう装丁か。

【村石課長】装丁は四つ目綴じの和綴じ本、袋とじの状態。何か手を入れた感じはない。

【井上委員】丁数はどれぐらいか。

【村石課長】今手元にないが、74句なので薄い冊子。

【井上委員】詞書があるので、文章が豊富なので厚い冊子なのかなと感じた。

【村石課長】旅行記のようになっており、行ったところの句が出てくる。丁数をもう一度調べてみたい。（→資料調査から丁数は5丁）

【浅倉会長】一茶なら著名人なので何とかなるかもしれないが、やはり1000万円は高い。

【村石課長】確かに高い。

【笹本特別館長】以前からこのクラウドファンディングの話が県から来ていたが、先程のこの前買った本に関しても、実は目標金額までは達しないと思っていた。達しない場合には県民からもこれだけ来ているのだから、残りは出してほしいという話をしていた。この時期もまた問題で、先程も話にあったように、県制150周年展示会もするし、何か大きな記念イベントとセットにしないととてもクラウドファンディングでこれだけの金額は集められないのでは、と懸念する。

○令和8(2026)年度の購入予定資料について—2

【浅倉会長】ここまでが県外への流出を防止するための購入資料および購入予定資料についての報告となる。次に、資料10、11について事務局より説明を。

【水澤課長】25頁の資料10。常設展示の充実のための資料収集について報告。常設展示は開館以来30年を迎える中、展示内容の更新と展示環境の劣化に伴い、①、②の収取方針を掲げ、予算要求をしていく予定。このうち緊急性が高いのは②。展示室の温湿度環境は昨年度にも増して悪くなってしまっており、特に冬の湿度が30%台。木製品の実物資料を置くことができない。そこで、複製品（27頁資料11-1）の製作のための予算要求を行う予定。まず方針の①。常設展は125の小テーマに分かれ、それらを展示替えすることでいつも同じ資料というマンネリ感を与えないように工夫している。今後は少しづつ新テーマを増やし、それに伴って新規の資料購入も進め展示を充実させていきたい。令和6年度のこの会議で複製希望資料として報告した6点は現在すべて購入出来ていないため、今年度は資料を絞って予算要求を行う（見積もりは28頁の資料11-2のとおり）

【浅倉会長】レプリカの優先順位が高いということのようだが、ナスビ形鉗は小テーマの中でどこに入るか。火縛型土器は縄文文化のコーナーか？

【水澤課長】ナスビ形鉗は中テーマの「条里と水田」の中の小テーマ「水田と農具の変化」に入る。火縛型土器は中テーマ「中央高地の縄文文化」の中の「華やかな土器文化と生業」に入る。

【浅倉会長】常設展示方針と購入希望に関して、質問や意見を。

【織田委員】複製品への考え方には、分野によって差がある。美術史だとレプリカに積極的な価

値を見出せない立場だが、今の展示室の状況ではたしかに実物では対応できない。そこで、レプリカでなくてはならない活用方法を示せれば予算が取りやすいのでは。例えば体験学習で利用するなどが考えられる。

【水澤課長】お出かけ歴史館では中南信の学校現場に実物の土器等を持参して触ってもらう体験学習を実施しているが、同様の体験学習の対象としてかつて木製祭祀具を複製したことがある。今回のケースは展示オンリーで考えていたが今のご意見を参考に予算取りの際の説明をしたい。

【石川委員】複製ができた場合複製過程でのデジタル3Dデータはどこに所属するか。今回複製品の見積もりを3社から取っているが、彩色の費用が一番掛かるので、あえて彩色をしないものも複数作るのはどうか。彩色せずに木の地のままのものを手に持ってこんな大きさで、こんな風に使う、と紹介できる。土器と違って、質感、サイズ、使い勝手の方が重要。そこで、形だけの加工で、参考に見積もりを取ってみては。経費もその方が掛からないのでは。

【井上委員】石川先生と同じ意見。考古資料ではないが、修理データ、紙のデータをベースに復元和紙を作って高精細のカメラで撮影したことがある。高校生たちに実際の紙はどういうものかという観点で、触らせてみて、風合いや折り方に関する感想を聞いた。資料と復元和紙を比較させてみる試みは効果的で、プログラムを作ると幅が広がる。

【石川委員】体験のための複製品は、展示に使う精巧な複製品とは別枠にしておかないと破損等もあり得るので注意が必要。その扱いとしては、別立ての予算を取った方がよいのではないか。

【水澤課長】令和8年度の事業として予算取りを行う「常設展示室DX化事業（仮称）」では、常設展資料のデジタル化を進め、資料の背景に関する詳細な画像を見られるデジタルコンテンツを作ろうと考えているので、ご指摘の通り複製過程の3Dデータを蓄積して活用したい。

【井上委員】3Dデータを可視化して展示に使おうと考えており、3Dデータは作っておくと便利なので、オープンキャンパスでも利用したい。

【井上委員】空調機の不調が複製製作の前提にあると思うが、私たちのところも空調機が大きな問題。根本的に空調機の改修は予定されているのか？

【浅倉会長】予算的な問題は？

【井上委員】ちょっとした修理だけでも高額。展示施設の空調だと相当な経費がかかるのでは。そういう部分を根本的に直さないと問題が解決しないのでは。

【石川委員】福島県立博物館も、空調不良で展示室に問題があると聞く。県立レベルの博物館等が出来て50年～30年、どこでもこの問題が噴出しているようだ。

【水澤課長】企画展示室もこれから改修に入るが、常設展示室も大きな問題を抱えているため、トータルで館としてのリニューアルを考えている。

【浅倉会長】予算が確保されると良い。

【笛本特別館長】リニューアルするといつても、修復の資金が必要で、新しく建てた方がランニングコストも掛からずに済むのではという議論もある。これからも不調が続いた場合どうするか、その辺も含めての県の方針はまだ決まっていないので、我々としては当面の間皆様のご了解のもとに資料購入をきちんと進めていきたいと思う。最終的には良い形で県民の皆様に提示しなけれ

ばならない。

【原田副会長】真田昌幸の甲冑と言われるものが偽物と判明した事例がある。また研ぎ代が、寄贈された刀の価値の2倍近い場合もある。刀の研ぎや、甲冑の修理はかなりの高額なので注意を要する。

【笹本特別館長】資金の問題があるし、当館では刀の扱える職員がいない。展示資料候補に甲冑や刀が上がった際は、委員の皆様にご意見をいただくが、余程のことがない限り購入は予定しない。今一番問題なのは、資料の点検や対応が出来る人が数年で交代してしまうこと。そのため委員の皆様からのご意見が必要。

【織田委員】甲冑、刀剣には課題があるので持ち込まないようにしている。ただ、刀剣として受け入れない場合でも、その当時、地元にゆかりのあった歴史資料の一つとして扱うことにしている。

【浅倉会長】来月、山鳥毛という謙信の刀が特別展示される。学芸員は扱ったことがないため、新潟県博にまず刀の扱い方の講習に行く予定。

【井上委員】文化庁サイドから人材の育成に関するプログラムがあるか。

【笹本特別館長】学芸員は研究者のところもあれば、名前だけのところもあるが、資料を収集した以上は展示や保存を前提にする必要があるため、きちんと資料を取り扱える学芸員が必要。今後学芸員をどうするかは資料選定の上の大きな課題になっていると思う。厳しい状況と言しながらも、これだけの資料が集まっているし、県も今のところ資料購入予算をカットしていない。だからこそ価値があるものを購入したい、と言い続けなければならない。先生方には引き続きご協力をお願いしたい。

【浅倉会長】以上をもちまして議事はすべて終了。事務局においては、各委員の皆様から出されたご意見を十分に尊重しながら資料収集に努めるよう、お願いしたい。

【新津副館長兼学芸部長】ご協力御礼。委員の皆様の任期は今年度末。来年度引き続きお願い申し上げる際は、追ってご相談したい。

7 館長挨拶（小松館長）

任期最後の今回の会議で委員の皆様から頂いた具体的なご意見やアドバイスを今後の運営に活かしていきたい。また、現在来年度に向けての予算編成中。厳しい中で要求を行う状況だが、本日のご意見を活かしていく所存。引き続き当館へのご協力をお願い申し上げ、御礼の挨拶とする。

8 閉会

【新津副館長兼学芸部長】以上で委員会終了。事務局から連絡を。

【水澤課長】このあと、夏季企画展の解説予定。来年度の会議は今年度と同様に7月の下旬の木曜か金曜に開催を予定。委員任期は今年度だが引き続きお願いする先生方には、後日ご就任のお願いと候補日を連絡したい。引き続きご協力のほど。